

# 環境経営 中部から発信



4月20日に名古屋市内で開かれた環境経営のセミナー

「ISO14005」は、環境マネジメントシステム「ISO14001」の認証の過程を段階別に設定し直した国際規格。JACOが構築した段階別のスキームは、14001が要求する108の項目を「HOP」「STEP」「JUMP」の3段階に分けているため、資金面や人材面などで体力的に乏しい中小企業でも比較的取り組みやすい。段階をひとつずつクリアしていくことで、継続的に環境経営に取り組み、最終的に14001の認証の取得をめざすことが可能だ。

名古屋を

2012年5月16日付け中部経済新聞

## 段階型ISOがJIS規格化

### 中小企業も構築容易

#### 今月市内で1社合格へ

東日本大震災の発生から丸1年が経過。社会貢献活動の機運が盛り上がりを見せるなか、中小企業の間でも、省エネなど環境に配慮した経営に対する関心が高まっている。今年3月には、段階型環境マネジメントシステム「ISO14005」がJIS規格（日本工業規格）となったことで、中小企業が「環境経営」の構築に乗り出しやすくなった。審査・認証機関の日本環境認証機構（JACO）によるとISO14005は現在、全国で5社が合格。5月末までに、名古屋市内でも1社が合格する見込みだ。（竹田ゆりこ）

「ISO14005」は、環境マネジメントシステム「ISO14001」の認証の過程を段階別に設定し直した国際規格。JACOが構築した段階別のスキームは、14001が要求する108の項目を「HOP」「STEP」「JUMP」の3段階に分けているため、資金面や人材面などで体力的に乏しい中小企業でも比較的取り組みやすい。段階をひとつずつクリアしていくことで、継続的に環境経営に取り組み、最終的に14001の認証の取得をめざすことが可能だ。

中心に活動するマネジメントシステム支援研究会の長沢進代表は「一層気が悪くなるコスト削減の影響で環境経営は薄れがち。しかし、企業のための価値を高めるためにも、時代の要請に適合した環境経営に取り組む意欲は大きい」と、指摘する。14005の場を研究するとともに、約1カ月で仕組み直しを行い、運用する。14005の場を研究するとともに、JIS規格となる前の2010年に豊橋市の東洋ライト工業が初めて合格。さらに名古屋市内で近く、1社の合格が見込まれている。

「ISO14005」は、環境マネジメントシステム「ISO14001」の認証の過程を段階別に設定し直した国際規格。JACOが構築した段階別のスキームは、14001が要求する108の項目を「HOP」「STEP」「JUMP」の3段階に分けているため、資金面や人材面などで体力的に乏しい中小企業でも比較的取り組みやすい。段階をひとつずつクリアしていくことで、継続的に環境経営に取り組み、最終的に14001の認証の取得をめざすことが可能だ。